

令和7年12月15日

意見発表

◆おだ幸子委員

文教常任委員会に付託されました諸議案について、公明党県議団として賛成の立場から意見、要望を申し上げます。

まず初めに、県立学校問題解決サポートダイヤルについて。

サポートダイヤルは、学校現場の負担軽減に大きく寄与し得る有用な仕組みと考えます。相談内容の分析結果を学校に的確に還元し再発防止を図るとともに、周知の強化や体制の充実、機能の拡大を行うことで、より実効性のある制度へ発展させていただきたいと考えます。

次に、公立学校における配慮が必要な児童・生徒への支援について。

感覚過敏な子供HSC、Highly Sensitive Childや、聞き取り困難症LiD、聴覚情報処理障害APDを中心に質問させていただきましたが、まだ広く認知されない特性であることから、教員をはじめとする周囲の大人が正しい理解を持ち適切に気づくことが極めて重要です。あわせて、児童・生徒が自らの特性を理解し、必要な支援や配慮について相談できる環境を整えることも、誰一人取り残さない教育の実現に向けて不可欠と考えます。

感覚過敏に関して言えば、教室の明るい蛍光灯の光、反響する雑音、休み時間の喧騒など、私たちには何気ない環境が彼らにとっては痛みに近い負担となる場合があります。海外では、白を基調としたホワイトルーム、照明を落として視覚刺激を調整するブラックルームのほかにも、触覚、音、光などを調整できるスペースを持つ学校が一般的で、感覚環境のユニバーサルデザインが当たり前になっている国や地域があると聞きます。安心して学びに向かえる環境を整備することは、増加する不登校の対策にもなると考えます。

また、インクルーシブ教育を推進する上で、感覚の多様性への配慮は避けて通れない課題であり、県として真剣に受け止め、対策を取る必要があると考えます。県が積極的に感覚に配慮した教育環境の整備を推進していただくよう要望します。

最後に、県立の通信制高校における取組について。

今回の質疑を通して、県立通信制高校における取組が手厚く行われていることが分かりました。内容を見る限り、私立のサポート校に近い支援まで取り組んでいると思います。

現在、高校授業料無償化の拡充について検討が進められていますが、サポート校の費用は対象外のようなので、その点を踏まえると、県立通信制高校は、もっとその魅力について積極的に発信していくべきではないかと考えます。

私立の通信制高校が現在多くの学生を集めている理由と考えられる、多様なコース設定、ICT活用の先進性などの特色も参考に、さらに魅力向上を図ってください。そして、多様な学びの提供のために、中学生やその保護者に向けた広報活動にもより力を入れていただくことを要望します。

以上、当常任委員会に付託された諸議案について賛成の立場を表明し、意見、要望の発表とさせていただきます。